

資料紹介

満洲国岫巖県興亜国民優級学校に於ける学校経営史料

高野 仁

はじめに

満洲国の教育の本質を明らかにするには、当時学校現場で何が行われていたかを示す史料が欠かせない。しかし異国の地であることや現在の中国の研究環境からして、それを眼にすることは容易ではない。二〇〇八年偶々私の勤める学校の同窓生であった金井三郎氏にお目にかかり、氏が現地で教鞭をとられていた頃の現場の史料を氏の自宅で見せていただいた。氏がどのような経路でこの史料を満洲より将来したかは、他界した今知る術が無く残念ではあるが、史料を託された者の務めとして、高野が編集し紹介する次第である。枚数の関係で二号にわたって掲載することをご了承いただきたい。

先ず金井三郎（以下敬称略）の略歴に触れたい。

大正11年3月	長野県中野市（現）に生まれる
昭和13年3月	下高井農学校卒業
昭和14年6月	満洲国立中央師道訓練所入所
昭和15年12月	同所養成科第一部卒業（二期生）
昭和16年1月	安東省岫巖県岫巖街公立国民優級学校勤務
	県視学委員
昭和17年6月	壮丁検査 甲種合格
昭和19年1月	岫巖街公立大寧国民学校勤務
昭和20年4月	新京特別市公立文廟国民優級学校勤務
同 6月	召集令で北孫呉電信第四二連隊に入隊
同 10月	ソ軍により南嶺（学校校舎）に強制収容、
	後キウダー附近に連行、労役従事
昭和22年4月	ナホトカ港に移動後、8月舞鶴港に上陸帰

国

昭和23年4月 下高井郡中野町立中野小学校勤務 以後

県下の小学校に勤務

平成24年1月 永眠 享年91歳

次に史料の体裁は、藁半紙に活字印刷のものや手書きのものもあるが、大半はガリ版印刷で、字が薄れた所に金井のなぞった後が見られる箇所もある。大きさはB4版を二つ折りにして、表題をつけて冊子として綴じられている。紹介するのは四冊（学校一覽表、研究録、研究会、岫巖県全県学校長

會議指示注意事項）、とその他にB4版一枚の訓話記録、学校日誌、物品収支明細簿である。

学校の所在地岫巖県は遼東半島の付け根の内陸部にあたり、

東の丹東と西の営口を結ぶ線のほぼ中間に位置し、満洲国時代は安東省、現在は遼寧省に属する。史料は主に康德九年（1934）度のものである。これは西暦一九四二年昭和十七年にあたる。使用言語は多くは中文であるが、日文も所々に見られる。また、貨幣の単位は円で、満州元と同価値である（金井談）。なお、史料中判読不可能な文字は■とした。

一 学校一覽表

現在では「学校要覽」と呼ばれ、その学校の概要を顯す基本的資料で、毎年度当初各学校で必ず作成する。「学校沿革」「学校概覽」「職員一覽表」「学校経営概覽」「行事」「各種統計」の六部門に分かれている。

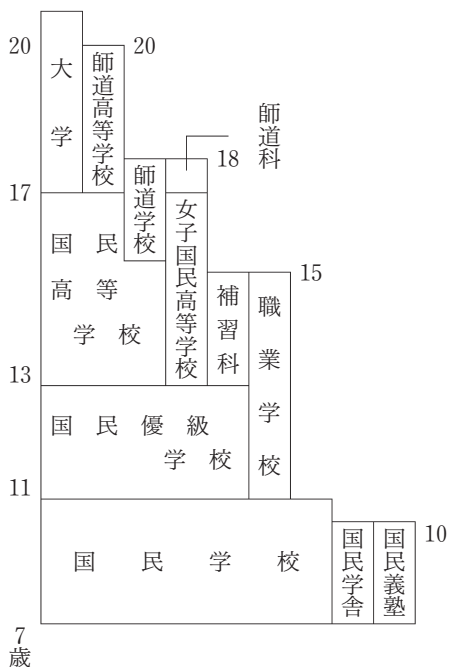
康德九年度 学校一覽表
岫巖県興亜国民優級学校

創立	光緒三十一年一月一日	大寧書院内ニ岫岩州立初級師範兼両等小学堂ノ為ニテ創立
改編	民国元年八月	高小ヲ三年制ニ初小ヲ四年制ニ改編
改称	民国五年二月	岫岩県立第一高級小学校ト改称
改編	民国十二年八月	学制変更ニ因リ高小ヲ二年制ト為ス
改称	康德三年二月	岫岩県立大寧書院両級小学校ト改称

改称	康德五年一月	新学制実施ニヨリ初小分立シテ 岫岩県岫岩街公立大寧国民優級学校ト改称
認定	康德六年二月	岫岩県実験初級学校
統合	康德六年九月	初等学校統合令ニヨリ西街国民優級学校ヲ統合シ 岫岩街公立国民優級学校ト改称
併合	康德七年八月	私立三育国民優級学校廃校トナリ之ヲ併合ス
校舎移転	康德七年九月二三日	西門外現在地ニ新校舎ヲ建立シ移転シ新校設立日ヲ以テ 創立記念日ニ改変ス
校名変更	康德八年九月二三日	岫岩県岫岩街公立興亜国民優級学校ト変更ス

新学制（康德四年公布）の学校体系の概要と満洲国の年号及び西暦との比較は次の通りである。国民学校・国民優級学校は従来の初級・高級小学にあたる。新学制前の初級・高級中学（三年・三年計六年）を廃止し、実業教育中心の四年制国民高等学校にしたことで中国側研究者が「愚民教育」「奴化教育」と批判している。

なお、私塾を国民学校に移行させる過渡期として、ある程度国民学校に近い教育内容をもつ私塾を、公立の国民学舎、その次の私塾を国民義塾と指定し、学校体系に取り込んだ。



職 員 配 置 一 覧				
計	第三種教諭	第二種教諭	第一種教諭	
一六	一	八	七	男
四	一	三		女
二〇	二	一一	七	計

学校概覧

	學 生 一 覽								
計	二 年 生				一 年 生				
三 九 四	級廉	級信	級義	級礼	級勤	級勇	級仁	級智	男
	五 六	五 四	五 五	五 四	四 四	四 四	四 四	四 三	
一 六 四	級梅		級桜		級菊		級菌		女
	四 五		三 八		四 〇		四 一		
五 五 八	三〇二				二五六				計

西曆	昭和	年号大同元年	満洲国の年号・日本の年号と西暦の比較
1932年	7年	2年	
33	8	2年	康徳元
34	9	2年	
35	10	2年	
36	11	3年	
37	12	4年	
38	13	5年	
39	14	6年	
40	15	7年	
41	16	8年	
42	17	9年	
43	18	10年	
44	19	11年	
45	20	12年	

職員一覽表

職名資格	氏 名	本籍地	本校就任月日	担任学級 及学科	研究学科	分掌事務	出身学校
校長教諭	寇扶桂	岫岩県	康德七年十二月	建国精神 国民道德	学校経営	総務	文教部教員講習所修了
主事教諭	河野茂秋	宮崎県	康德八年三月	日語	農 業	教 務	宮崎県師範学校卒業
教師教諭	金井三郎	長野県	康德八年一月				
〃	于廣甲	岫岩県	康德六年八月	体 育	体 育	訓練文書	鳳城地方師 〓 練所修了
〃	車輔德	〃	康德八年一月	二年礼級	満語	会 計	満洲国立中央師道訓練所修了
〃	曹希法	〃	康德九年一月	二年義級	体 育	体 練	鳳城地方師道訓練所修了
〃	白辰煊	〃	康德八年一月	二年信級	算 術	図 書	鳳城師道学校本科卒業
〃	白辰煊	〃	康德八年九月	二年廉級	国民道德	統計	鳳城地方師道訓練所修了
〃	関兆印	〃	康德七年二月	一年智級	日 語	教 授	満洲国立中央師道訓練所修了
〃	白辰燧	〃	康德八年九月	一年仁級	図 画	学 籍	鳳城師道学校本科卒業
〃	李文洲	〃	康德九年一月	一年勇級	音 楽	器 具	〃
〃	劉德貴	〃	康德九年七月	一年勤級	農 業	接 待	安東省立岫岩国民高等学校卒業
〃	楊毓芳	〃	康德六年九月	国民道德図画	図 画	分教場 主任	岫岩県立新制師範学校卒業
〃	麻桂馥	西安県	康德六年九月	二年校級	刺 繡	学 籍	奉天省立奉天第二国民高等学校卒業

〃	鄒立珍	岫岩県	康徳六年九月	二年梅級	家事	教授	岫岩県立新制師範学校卒業
〃	王淑璋	〃	康徳九年四月	一年蘭級	裁縫	訓練	安東省立安東女子国高師道科卒業
〃	趙淑媛	〃	康徳九年一月	一年菊級	体育	体練	〃
〃	劉国厚	〃	康徳六年九月			教科 援助 勤務	奉天省立新制第二師範学校卒業
〃	王吉棟	〃	康徳八年二月				鳳城師範学校卒業

校長は中国人で、日本人は重要な地位にある主事の河野と金井の二人だけであつた。満洲国の教諭の職階は、当初教諭・専科教諭・教導・教輔に分かれていたが、「階級的に差別視せんとする觀念を打破するため」、更に「国民教育といふ重要な国家事務に携わる」という理由で康徳六年の新文官令により、総ての教師に官吏の身分を与えたことを契機に第一種・第二種・第三種教諭（各種の違ひは卒業学校や経年数による）と改められた。

学校経営梗概

一、教育理想

建国精神、国本奠定詔書及回鑾訓民詔書の聖旨を奉戴し国民優級学校令第一条の要旨に基き王道翼賛の行者たるべき国民を養成するにあり

二、教育綱領

- イ 精神教育を基調として人格の陶冶徳性の涵養を図り国民精神の昂揚顕現に努めんことを期す
- ロ 労作教育を重んじ勤労愛好の精神を養ひ偏知教育の弊に陥るなかしめんことを期す
- ハ 豫備教育の思潮を排し学校体系の各段階に於ける教育をして完成教育となすの趣旨に尊ぶ

二 実務教育を重視す

ホ 体育に関しては其の精神的意義をも了得せしむると共に衛生方面と相俟つて国民健康の保護増進に努む
ヘ 女子教育に於いては婦徳の涵養に努め良妻賢母たるの使命を果たし得る如く特に実務的訓練を施す

ト 教師修養と実力向上とに力を用ひ設備その他の物的要素を第二義とす

チ 社会の文化民度財政等を考慮しこれと隔絶するが如きこと無からしむ

リ 学校と社会との連絡を緊密ならしめ学校をして社会教化の中心たらしめんことを期す

ヌ 時局教育を重んじ常に時勢に対する妥当適確なる認識を授け国民常識識見を養成し以て如何なる非常時局に於いても確乎不動の信念覚悟を持するの態度を涵養せんことに努む

「新学制」の教育方針は第一に、建国精神及び訪日宣詔の趣旨に基づいた国民精神の徹底的体得、第二に、生活に関わりの深い知識技能を修得する実業教育、第三に、身体健康の保護増進を図り、忠良なる国民を養成する、の三つであった。これに基づいて各学校でも学校経営の概要が定められた。

一 毎日行事

- | | | |
|-----------|--------------|-------------|
| 1. 日値宿値交替 | 9. 課 業 | 16. 事務整理 |
| 2. 出勤簿押印 | 10. 中 食 | 17. 日誌提出 |
| 3. 訓練週番勤務 | 11. 課 業 (作業) | 18. 明日ノ教授準備 |
| 4. 自習指導 | 12. 晚会 | 19. 日値宿値交替 |
| 5. 教授準備 | 13. 掃除ノ指導 | |
| 6. 職員朝会 | 14. 午後ノ自習 | |
| 7. 学校朝会 | 15. 成績物処理 | |
| 8. 出席調査 | | |
- 国旗ニ最敬礼
皇居遙拝
帝宮遙拝
朝ノ挨拶
- 学生信条斉唱
訓話注意
体操
- 二 毎週行事
- | |
|-------------------|
| 1. 国旗掲揚建国神廟遙拝 (月) |
| 2. 校舎内外一斉清掃 (月) |
| 3. 職員作業 (水) |

4. 職員体育 (金)	13. 月末統計	五 每年行事(年中行事)
5. 朝会朗読 (木)	14. 会計検査	1. 経営案作成
6. 訓練協議会 (土)	15. 理髪日	2. 学級編制
	16. 沐浴日	3. 予算編成
三 毎月行事		4. 家庭訪問
1. 職員会	四 每学期行事	5. 身体検査
2. 大詔奉戴日	1. 詔書競書会	6. 後援会
3. 学年会	2. 日語発表会	7. 敬老慰安遊芸会
4. 教授研究会	3. 日語校内昇級考査	8. 運動会
5. 研究発表	4. 学期末考査	9. 成績物展覧会
6. 校旗訓練	5. 教授細目進度表作成	10. 日語発表会
7. 毎月貯金	6. 体力検査	11. 教師日語競進会
8. 忠魂碑参拝	7. 遠足旅行	12. 語学検定試験
9. 孔子廟参拝	8. 備品事務用具検査	13. 研究会派遣
10. 教室検査	9. 反省会	14. 他校参観
11. 服装清潔検査	10. 諸帳簿整理提出	15. 初中教師連絡会
12. 月末考査		

毎日の行事の中で、国旗に最敬礼、皇居遙拝、帝宮遙拝などは日本の皇民化教育のあらわれとされているが、農村の小学校や学舎・義塾ではあまり励行されていなかったと金井は口述している(二〇〇九年十二月二日聞き取り)。中国の研究

者から「学校管理の強化」であると批判されている、出勤簿の押印、出席調査を始めとする多くの管理事項が、県の中心的なこの学校では事細かく定められ実行されていたことがわかる。

各種統計

学 生 保 護 職 業 調 査							学 生 年 齡 調 査						
計		二 年		一 年		学 年	計		二 年		一 年		学 年
女	男	女	男	女	男	性 別	女	男	女	男	女	男	性 別
三九	一八八	一八	一一三	二一	七五	農	/	二	/	/	/	二	十一歳
六五	九四	二八	四四	三七	五〇	商	五	一五	/	九	五	六	十二歳
三八	五五	二四	二四	一四	三一	官	三三	七三	五	二二	二八	五一	十三歳
五	四二	四	一一	一	三一	教	三七	一〇七	一三	五六	二四	五一	十四歳
三	一〇	/	九	三	一	医	六二	九五	四六	五八	一六	三七	十五歳
二	二四	一	一〇	一	一四	工	一八	六一	一一	四四	七	一七	十六歳
一二	二二	八	九	四	一三	其他	八	三一	八	二一	/	一〇	十七歳
							/	五	/	四	/	一	十八歳
							/	三	/	二	/	一	十九歳
							/	二	/	二	/	/	二十歳

学 生 費 用						
計		二 年		一 年		学 年
一一〇〇	五五〇	五五〇	二四〇	二四〇	七三三	授業料
四八〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	七三三	後援会費
一五六	八三	八三	四〇〇	四〇〇	七三三	書籍費
七〇〇	四〇〇	四〇〇	五五〇	五五〇	七三三	文具費
女	男	女	男	女	男	制服費
一二〇〇	一五〇〇	六五〇	八〇〇	五五〇	七〇〇	

経 費 予 算				
計	其他	弁公費	人件費	費 目
二二五六八	八一二七	七八六	一二六五四	全 額
一△	二△	九△	△△	

学 生 通 学 距 離 調 査									
計		二 年		一 年		学 年	性 別	距 離	
女	男	女	男	女	男				
六二	九〇	三〇	五九	三二	三一			〇・童	
一一	六八	一〇	四八	五	二〇			一・童	
一五	五三	七	二二	八	三一			一・童	
二一	三八	一四	一八	七	二〇			二・童	
一五	二〇	一〇	八	五	一二			二・童	
一二	三四	三	一四	九	二〇			三・童	
三	一			三	一			三・童	
三	三		三	三				四・童	
								四・童	
二	一三		一〇	二	三			五・童	
	四		四					五・童	
一	六	一	三		三			六・童	
								六・童	
	一		一					七・童	
	一		一					七・童	
	七				七			八・童	
								八・童	
	三		一		二			九・童	
								九・童	
五	一九	三	八	二	一一			一〇・童	
一	三三		一六	一	一四			一〇・童	

学 生 住 址 地 域 別									
計		二 年		一 年		学 年	性 別	住 址	
女	男	女	男	女	男				
二七	四八	一五	二七	一三	二二			区内	
一三	二〇	九	一二	四	八			〃 徳道	
二四	二九	一〇	一九	一四	一〇			〃 後城	
三二	三三	一九	二七	一三	六			〃 市新	
二二	三四	一一	一六	一一	一八			〃 牆紅	
一八	三四	九	一八	九	一六			〃 平太	
一二	二二	五	一三	七	九			〃 舗香東	
八	三八	二	一八	六	二〇			〃 堡里二	
五	二八		一八	五	一〇			〃 旗藍	
三	三五		一二	三	二三			〃 陽朝	
七	七二		三八	七	三四			〃 他其	

卒 業 生 状 況									
計	康徳八年	康徳七年	康徳六年	康徳五年	康徳四年	康徳三年	康徳二年	康徳元年	年 度
									種 目
一二四二	二九五	二六六	二三三	八五	九四	八六	八九	八四	卒業生数
二四五	四八	三六	四五	二五	二一	一八	二八	二四	升学
五五六	一一五	一二〇	一五七	四二	三二	三〇	三二	二八	就職
一二九	二二	二五	一〇	二	一八	二五	一一	一六	無職
三〇八	一一〇	八五	二一	一六	二三	一三	一八	二二	其他

二〇		一九		一八		一七		一六		一五		一四		一三		一二		一一		年齢		
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	性別	種別	
	一			三	一	四	四	八	三	二〇	五	九	三	五	四	一	一			甲		栄養
				三	二	四	三	二四	一〇	五八	二九	九一	二八	九九	二八	七一	四	一五		二	乙	
								三		三	二	五	一	二	二	一		一			丙	正常 異常
						一		一六		五	六	三六	一五	三〇	一三	五		二				
											一	一	一	二		一					耳病	鼻及咽喉 鼻病 扁桃腺
											四	一五	五	一六	二	五						二齒 其他疾病
						三		五	七	六	六	五		一五	八			一				
							一	一		二	一			一								検査人員
	一			三	五	五	七	三〇	一八	六四	五一	一〇一	三八	一〇四	三五	七六	五	一七		二		

設 置 一 覧										計	
校具	校舎	校舎				校地				女	男
		分教場		本校		実習地	運動場	敷地 (内運動場フラクム)		五〇	二二
八〇	図書	教室	特別	教室	普通	教室	特別	教室	普通	一〇四	三六七
		七	一	四	一	八	五・五陌	四・二五陌	〇・七陌	五	一五
四五〇	農具	職員室				実習地学生一人当面積	運動場学生一人当面積				五
										三三	九五
一	衛生器具									二	四
										一一	三六
一五	(自然科学)理科器具									二〇	三五
五	其他器具機械					八六平方米	六六平方米			二	四
										一五九	四〇九

(この後に「岫岩街公立興亜国民優級学校平面図」があるが、割愛させていただく。)

各種統計の中で、「学生年齢調査」を見ると、標準的な年齢は十一歳から十三歳であるが、その範囲に収まる学生は全体の三割未満しかいなかった。民国時代から七歳国民学校入

学

学

の義務教育を強く進めてきたが、まだまだ不十分であった結果であろう。一方オーバーエイジが多く、また十八歳以上が十人も在学していることから、社会の要求に添って進学熱

の高まりも見取れる。このことは「卒業生状況」からも考察できる。升学（進学）者数は、康徳六年以降実数としては増えているが、割合は減少している。金井によると、其他欄は所謂浪人であつて、近年全体的に進学熱が高まり、上級学校進学が困難になったという。このことから満洲国の教育が只単に中国側研究者が批判する非合理、愚民化教育では無かつたことも指摘できる。

本校の劳作教育

金井三郎

（前略）

八 教授方針

一、教授事項

1. 普通作物、特用作物、蔬菜の栽培を知らしむ。
 2. 養畜につき知らしむ。
 3. 簡易なる農産加工につき知らしむ。
 4. 学校林、学校園
- 二、教授上の注意事項
1. 本省産業方針及当県の実情に即せしむ。
 2. 勤労愛好の精神を涵養すること。

二 研究録・研究会

毎年行われる研究会に向けて、研究リポートや教案が作成されて冊子となっている。研究録・研究会の二冊にそれぞれ十五本づつ掲載されている中には、国民道德指導案とか日語指導案、各教科の教案などがあるが、ここでは枚数の制限もあつて実業教育に関係する三本のみを紹介したい。なお最初の「本校の劳作教育」は分量が多いのでやむなく抜粋とさせていただいた。

3. 自習を自律的、研究的ならしめ、実習後の反省と整理につとめること。

4. 農業に関する正確な知識技能を体得せしめること。

5. 農業に関する経済的観念を涵養すること。

6. 学校実習は家庭実習と連絡すること。

三、努力事項

1. 実習は常に結果を反省して、累年比較して成績の向上発展に資すること。

2. 合理的経営法に着眼して、継続的に研究せしむ。

3. 自然に親しみ、愛せしめ、實際生活を理得せしむ。

4. 国策作物の増産を計ること。

第一学年

1. 教授事項

イ、園芸作物（蔬菜）の栽培を知らしむ。

ロ、容易なる普通作物の栽培を知らしむ。

ハ、養畜につき知らしむ。（豚）

二、学校園につき知らしむ。

2. 教授上の注意事項

イ、自然に親しみ、勤労愛好の念を養成する。

ロ、栽培作物の品名を知らしめ、農具の使用法を指導すること。

3. 努力事項

イ、作業活動はつとめて興味を持たしめ、自発的ならしめること。

ロ、家畜愛護心の啓培につとむ。

第二学年

1. 教授事項

イ、普通作物、特用作物、蔬菜の栽培につき知らしむ。

ロ、学校林管理につき知らしむ。

ハ、養畜につき知らしめる。(兎、鶏、山羊、緬羊)

ニ、肥料及び農産加工につき知らしむ。

ホ、合理的経営法を知らしむ。

2. 教授上の注意事項

イ、経済的経営につとめること。

ロ、帳簿、日誌の記載法に慣れしむ。

ハ、実習地経営上しらずの間に協同観念を養成し、共存共栄の念の啓培につとめる。

3. 努力事項

イ、養畜及堆肥増産につとむ。

ロ、合理的に計画的に、しかも継続的に研究せしめる。

(略)

一〇 康徳八年度実習経営経過及実績

(略)

種類	蔞類類	根菜類	■菜類	莢実類	葷辛類
収入	二三・二三	五七・三七	二一・四三	二一・八一	八・四一
備考					

一一三・二五

合計七三九・七三

種類	実習費	補助費
収入	一三〇・〇〇	一一六・〇〇
備考		

収入合計	九八五・七三
------	--------

種類	種子代	肥料代	用具代	その他
支出	一二六・九五	一〇二・一五	六二・四二	二一・二五

支出合計	三一七・七七
------	--------

収入・支出差引

六六七・九六

(実) 四二一・九六

七、植樹

区別	面積	数	種類
防風林	三〇〇・平方米	八〇〇本	栗、胡桃、松
週囲	九五〇・〃	一〇〇〇〃	唐松、楊柳、榆
苗 莆	八〇・〃	二〇〇〃	全部

(9・10・28)

以下次号に掲載